

シリーズ① 我が家の家庭教育

我が家の家庭教育と題して、四月号から掲載することになりました。

一回目は日吉地区です。

みなさんのご家庭でも掲載者と同じような思いを感じている方もあると思います。一人でもおおくの人がこれを機会に「我が家の家庭教育」について、考えてみてはいかががでしょうか。

子どもの目

日吉地区

越川 幸雄

長男が小学生のころ、先生に「親のあとを継いで仕事をしたい人は」と聞かれたそうです。そのとき我が子はなんと答えたと思いますか、「うちは残業と借金が多すぎるから、それがなくならない限りは親の後は継ぎたくない」と答えたそうです。それを聞いてびびくりしました。全くずばり！ 現況はまさに、その通りだったのです。

子供は親の日常生活・行動や仕事を細かく観察している（直感的に肌で感じとっているのかもしれない）ようです。

残業で疲れると、ついつい些細なことでも腹をたてたり、いつもなら我慢ができることなのに声を荒だてたりする。……

また夫婦で時には金の工面の相談をすることもある。子供はそういう親の姿をいつも知らないふりをして、本当はしっかりと見つめていたのだと思う。



汗まみれ、泥まみれになって働く親の姿を見て馬鹿にする子供はいないはずだ。……せつかく一生懸命働きながら空まわりしているのかもしれない。子供から見れば、あんなに働いていながら金の足りない親のやり方が歯がゆく思えたのかもしれない。そんな親の仕事を進んで継ぐ気にはなれるはずもないのです。ほんとうに素晴らしい働き姿として子供の目に映らなかつたもうひとつは、仕事の上などで苦労している夫婦の姿が子供の目に、円満な姿として映らなかつたせいもあるでしょう。

子供の目というのは、ありのままの姿を映しだす鏡のようなものではないでしょうか。仕事の苦労も、子供の目には、元気に立ち向う親の姿として映らせたいものです。

また、小さな子供の目には、映つたものをそのまま受けとるだけに終わるので、親子の会話を大切に行きたいと思えます。なにげない会話の中から親の努力、生きざまなどが子供の鏡に映つてくるのではないのでしょうか。ともあれ、夫婦が日々和気あいあいのなかすがすがしい気持ちで働き、ほのぼのとした心で家庭団欒ができたなら、——
親の夜なべ姿もきつと今までと違った感覚で子供の目に映るかも知れない。……
そう思いながら働いている今日この頃です。

赤電話が街角にお目見えして 満30年を過ぎました

街角でみなさまのさまざまな声をおつたえしてきた赤電話
ラクガキなどしないで大事にしてね……。

お元気ですか

④

あなたの健康の
秘訣を一言

小田部 鈴木

利夫さん
大6・1・16



自分一人のからにこもらず、
多くの人に接するよう心掛けてい
る。特に若い人と接するのは若返
り、つまり健康につながります。

木戸 実川

光代さん
大12・7・23



毎日入浴の後自分なりの体操
をやることにより、その日の疲
れをとる。これが秘訣だと思
います。

白磯 橋村

よねさん
大10・5・11



自分の体の調子に合わせて好
きな盆栽いじりをする。これが
健康につながっていると思いま
す。無理は禁物を念頭に。

連絡お待ちします

有線放送では、
四月から毎日のお知らせ
番組の中に、各地区や部落の
催しものなどを取材し放送する
予定です。皆さんのみじかな催
しものをお知らせください。
マイクを持ってお待ちします。

④ 11042

（南）214-001